

令和5年度 第4回 広沢小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和6年2月19日(月)13時30分から15時30分
- 2 開催場所 広沢小学校 開放教室
- 3 出席委員 杉浦 友治、平野 圭吾、山田 谷一、橋本 憲幸、川上 玲子
宮本 慶子、橋本 かずよ、佐々木 知成、加藤 いずみ
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校コーディネーター 矢野 貴恵
- 6 学校 澤田 強志(校長)、谷野 幸代(教頭)、鈴木 俊彰(主幹教諭)
渥美 彰三(CS担当)
- 7 教育委員会 鈴木 陽子(教育総務課)
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
(1)学校関係者評価について(主幹教諭)
(2)来年度の学校運営の基本方針について(校長)
(3)学校運営協議会の自己評価
(4)夢育やらまいか CS 加算分の報告(教頭)
- 10 会議録作成者 中村 隆太郎
- 11 会議記録

司会の谷野から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉浦会長から加藤委員を議長に推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 学校関係者評価について

○学校評価アンケートの結果及び分析、改善点について(鈴木主幹)

- ・保護者から「感動や体験の場が、お子さんの心の成長につながっていると感じる」の評価がよく、学校運営協議会の中でつないだ活動も多くあったことに感謝をしている。
 - ・重点目標「かかわる力」の「あいさつ」について、児童は9割の達成感がある。
 - ・「勉強が楽しい」については学ぶ意義について感じられるようにしていきたい。
 - ・「目標に向けてがんばっている」についても9割の達成感がある。
 - ・保護者の評価に関して、児童と多少違っているところもあり、「感動や体験の場が、お子さんの心の成長につながっていると感じる」が特に高い評価である。
 - ・来年度は、「かいけつする力」「かかわる力」の育成に重点をおく。
 - ・「キャリアパスポート」の活用により、振り返りを丁寧に行ってきた。
- 「1年間でこうなる」「しょうらいのゆめ」「みんなのためにがんばる」などについて振り返りながら、高校生まで積み上げて自身の成長を感じられるものとなっている。また、保護者との共有ができています。今後も継続していく。

・「かかわる力」に関して、いじめの防止についても取り組んできた。未然防止として、エンカウンターやピアサポートなども効果的であったと考えられる。

○アンケート項目の設定と評価について(山田委員)

・アンケート結果を受けて、広沢っ子宣言の4についての考察がないので、載せておけばよいのではないか

→重点目標でなかったため載せていなかったが、9割達成の項目もあり、取り組みの効果は出ている(鈴木主幹)

・令和4年度にはなく、令和5年度にあるアンケート項目があるが、項目の対応と精選が必要ではないか

→重点目標の変化などの関係で質問項目も変わっている。本校の特徴にあった項目になるように調整している。その関係で、近い項目だが少しずつ変わっている(鈴木主幹)

・ピアサポートの実態

→まずは職員がどのようなものかを知るために、夏の研修で職員対象に実施した。それを受けて、学級の中にピア係などを設定して、児童に広めているところもある(鈴木主幹)

○子供の間関係づくりについて(加藤委員)

・教室に入りづらい児童の受け入れの場として「かがやきルーム」が開設されたが、どうか。

→実際に利用していた児童が教室に戻ったり、前向きな反応が見えたり、効果が見られている(鈴木主幹)

○学校評価について(澤田校長)

・今年度の取組を振り返っての御意見をいただけるとありがたい

○自身の子供の様子から感じる学校での取組について(平野委員)

・自分の子供のことで言うと、学校での表れが、家庭での姿につながっている。

・学校での姿を見ても、いじめという話を聞かないし、学校での取組の効果を実感している。PTAの中でも、そのような話はあまり聞かない。

○できていなことをどのように捉えるかについて(橋本憲幸委員)

・中学校でもあるが、1年生と3年生の保護者の見方が違うので、第一子、第二子によってもアンケート結果の捉え方も違う。

・全てがみんな100%達成じゃなくても、できなかったことを次にどうするのかというのを考えていくことが大切。

・今は摩擦が起こらないようにすることを第一にしまっているの、小学校段階では、うまくいかなかったことからどうしていくかが重要。

・「ゆらぎ」といって、うまくいかなかったときの心の動きを次の取組につなげることが大切である。広沢小の子はスマートなので、失敗を避けたがるが、そういう経験も大切。

・10年後、どうなっているか分からない時代。アクシデントや変化に対応できる力を、教科書やクロムブックだけの学習だけでなく、人材を生かした生の学習を通して育てていく必要がある。

○学校での「かかわり」を支える取組について(澤田校長)

- ・小学校の中では、いじめを0にしようとはするが、実際は0にはならない。でも、見逃さない取組をしている。そのところに、年間を通して力を入れている。
- ・人材育成について、「かかわる」として、子供同士だけでなく、大人とのかかわりをもつ取組も行っている。そのことが学校評価の「体験」の設問の割合が上がっている理由かもしれない。

○自身の子供の様子から感じる学校での取組の効果について(橋本かずよ委員)

- ・はばたき学級に入級した娘の様子が大きく変化し、先生や友達に会いたいという気持ちをもつようになった。感謝している。
- ・本年度の体験活動の中で、ピーナッツづくりを行った。ピーナッツづくりの体験だけでなく、講師のナッツ(杉山)さんの生き様を見て、娘の考え方が変わった。

○教科の目標だけでない地域人材活用の効果について(澤田校長)

- ・育てたい力の育成に向けてカリキュラムマネジメントを行う中で、地域の人材を生かすことができた。まさにキャリア教育を行うことできた。
- ・3年生が「わが町広沢」に取り組んでいる中で、「はままつ祭り」の学習を通して、お話をしてくれた地域の方が、どれだけ町や祭りを愛しているのか、町への愛着心ということにも気付いてくれたのではないか。

(3) 来年度の学校運営の基本方針について

○R6 基本方針説明(澤田校長)

- ・「かいつする力」に力を入れ、学びから自己肯定感を高められるようにしたい。
- ・ただ、ベースは「かかわる力」なので、そこについては引き続き取り組んでいきたい。いじめ対策についても継続してやっていく。
- ・予測困難な時代を生きていく中の学校教育目標は「共に輝き、未来を拓く子」
- ・個別最適、協働的な学びに力を入れていきたい。
- ・学校創立90周年を迎えるので、学びの教材として、主体的な学びにつなげていきたい。
- ・目指す学校像について、子供に分かりやすい言葉として「大好き広沢～みんなの笑顔あふれる学校～」。自分、友達、先生、勉強、学校大好き。子供も親も先生も地域の方も笑顔に。目指す姿はこれまでと変わらない。
- ・発達支援級へのニーズの高まりがある中で、普通級と支援級とのかかわりを多くしていきたい。
- ・「重点目標」として、広沢っ子宣言とキャリア教育で育てたい基礎的、汎用的能力とを関連させて取り組む。
- ・「勉強が楽しい子」85%の目標としたい。「勉強」を「学ぶこと」などの別の言葉に変えることも必要かも

○「勉強」について(矢野コーディネーター)

- ・勉強という言葉は強られるイメージがある。

○「勉強」について(橋本憲幸委員)

- ・保護者に対しては「学び」の方が納得感があるが、子供にとっては分かりやすい

言葉の方がイメージしやすいので、子供たちにどのように伝えるかが重要。

- 「勉強」について(杉浦委員)
 - ・高校に進学して、必ず大学に行く必要があるのか。勉強することが生きることの負担になってはいけない。
 - ・教育の形を見直すことも必要。
- 「勉強」について(平野委員)
 - ・そんな時代だからこそ、宣言3の「夢をかなえる」という意識を子供たちに強くもってもらえると嬉しい。
- 「勉強」について(加藤委員)
 - ・自分たちのしたいことにかける子供のエネルギーはすごい。
- 「勉強」について(澤田校長)
 - ・課題設定から子供たちが行うことが大切。
- 「勉強」について(宮本委員)
 - ・これだけの力を付けることが定められている中で、さらに個別最適な学びが求められているのは、教員にとっては大きな負担。
 - ・「勉強」でもよいのでは、最初は無理して行っていることも繰り返し繰り返し行っていく中で無理ではなくなってくる。そのようにして身に付く力こそ本物ではないか。
 - ・人のためにやっていることが、いつか自分のためになっていく。そんな思いをいかに子供にもたせるかが教師の役割ではないか。
 - ・学びのきっかけはどこにあるかは分からない。何のために学んでいるかは、人によっても違うし、今は分からないこともあるかもしれないが、必ず意味が分かる時がくる。
- 学校評価への疑問について(佐々木委員)
 - ・「かがやきレター」を書いている値は低いが、「友達を大切にしている」は高いのはなぜか。学校としての捉えはどうか。
 - 子供たちの意識としては、「かがやきレター」を書いた枚数にこだわっているのではないか。教師から見るとよく取り組んでいると感じている。(鈴木主幹)
 - ・この意識のずれをどのように捉えて、対策をしていくかが大切ではないか。
- 「かがやきレター」の効果について(澤田校長)
 - ・「他に目を向けることの大切さ」を意識して、まずやってみようという今年度であったが、来年度はもう少し、学校として統一するものが必要になるかもしれない。
- 家庭と学校の、子供に関する情報共有について(平野委員)
 - ・子供の情報を家庭と共有することが大切。
- 家庭と学校の、子供に関する情報共有について(佐々木委員)
 - ・教師の負担が増えてしまうことが引かかる。
- 家庭と学校の、子供に関する情報共有について(橋本委員)
 - ・「保育サービス」という言葉が使われる。小学校、中学校は教育の場でありながら、保護者はサービスを受ける側という意識が強くなっている。
- 家庭と学校の、子供に関する情報共有について(澤田校長)
 - ・やはり学校と家庭の意識を共有する場は学校運営協議会や PTA 活動などで、

この取組を率先して発信していく必要がある。
協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(4) 学校運営協議会の自己評価(平野委員)

- 学校運営の基本方針について熟議することができた。
- 学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについても熟議を進めることができた。
- 協議会での協議結果について、CSだよりや学校だより等で情報発信を行うことができた。
- 来年度も、広沢小の子供たちに付けたい力を共有し、一緒になって考えていきたい。

(5) 夢育やらまいか CS 加算分の報告(谷野教頭)

- 意見に基づき実施した活動等
 - ・文化、芸術体験学習の充実(邦楽鑑賞教室での行使の演奏)
 - ・家庭教育の推進(家庭教育講座の実施)
 - ・部活動指導の充実(合唱部の活動に地域在住の専門家からの指導)

その他報告事項等

- ・矢野学校支援コーディネーターより学校支援活動の進捗について

連絡事項

- ・司会より卒業式、入学式への御出席について、通学路整備されたところについて
- ・校長より来年度の委員について
- ・来年度の運営協議会の予定日について
 - 第1回 5月10日(金)13:30～
 - 第2回 6月17日(月)13:30～
 - 第3回 10月16日(水)13:00～
 - 第4回 2月21日(金)13:30～